

Q1 平成31年度予算の概要は？

A 氷見市の平成31年度予算額は、399億8,202万円となっており、前年度に比べて7億3,770万円、1.9%の増額となっています。

このうち、市民の皆様の日常に大きく関わっている一般会計の予算総額は、230億2,000万円となっており、全体の約6割を占めています。

この冊子では、主に一般会計を中心に説明を行っていきます。

特別会計

132億6,613万円(33.2%)
(前年度139億3,196万円)

特定の収入(使用料や保険料など)で特定の支出に充てられる場合など、一般会計とは別にその経理を明らかにするため設けられた会計です。

国民健康保険特別会計	49億1,288万円
育英資金特別会計	880万円
下水道特別会計	16億6,306万円
介護保険特別会計	59億8,012万円
後期高齢者医療事業特別会計	7億 127万円

一般会計

230億2,000万円(57.6%)
(前年度214億9,100万円)

市民の皆様になめていただく市税や国からの交付金を主な財源として、福祉、教育、環境、消防、道路など、市の基本的な行政サービスを行う会計です。

平成31年度当初予算
399億8,202万円
(前年度392億4,432万円)

企業会計

36億9,589万円(9.2%)
(前年度38億2,136万円)

民間企業と同じように、その事業によって得た収入で支出をまかなう、いわゆる独立採算を原則とする事業について設けられた会計です。

水道事業会計	19億6,176万円
病院事業会計	17億3,413万円

ポイント

平成31年度の氷見市の一般会計当初予算は、前年度予算と比べて7.1%の増額となっています。「人口減少対策」の強化及び「人口が減少しても幸せに暮らせるまちづくり」の実現のため、いのちと暮らしを守る「住みたい街」、働く場所を創出する「働きたい街」、氷見で子どもを生み育てる「育てたい街」の「氷見元気プロジェクト」事業へ、予算を優先的に配分しています。

Q2 氷見市民”一人当たり”どれだけの予算がありますか？

A 氷見市の一般会計予算、230億2,000万円を市民一人当たり換算してみました。

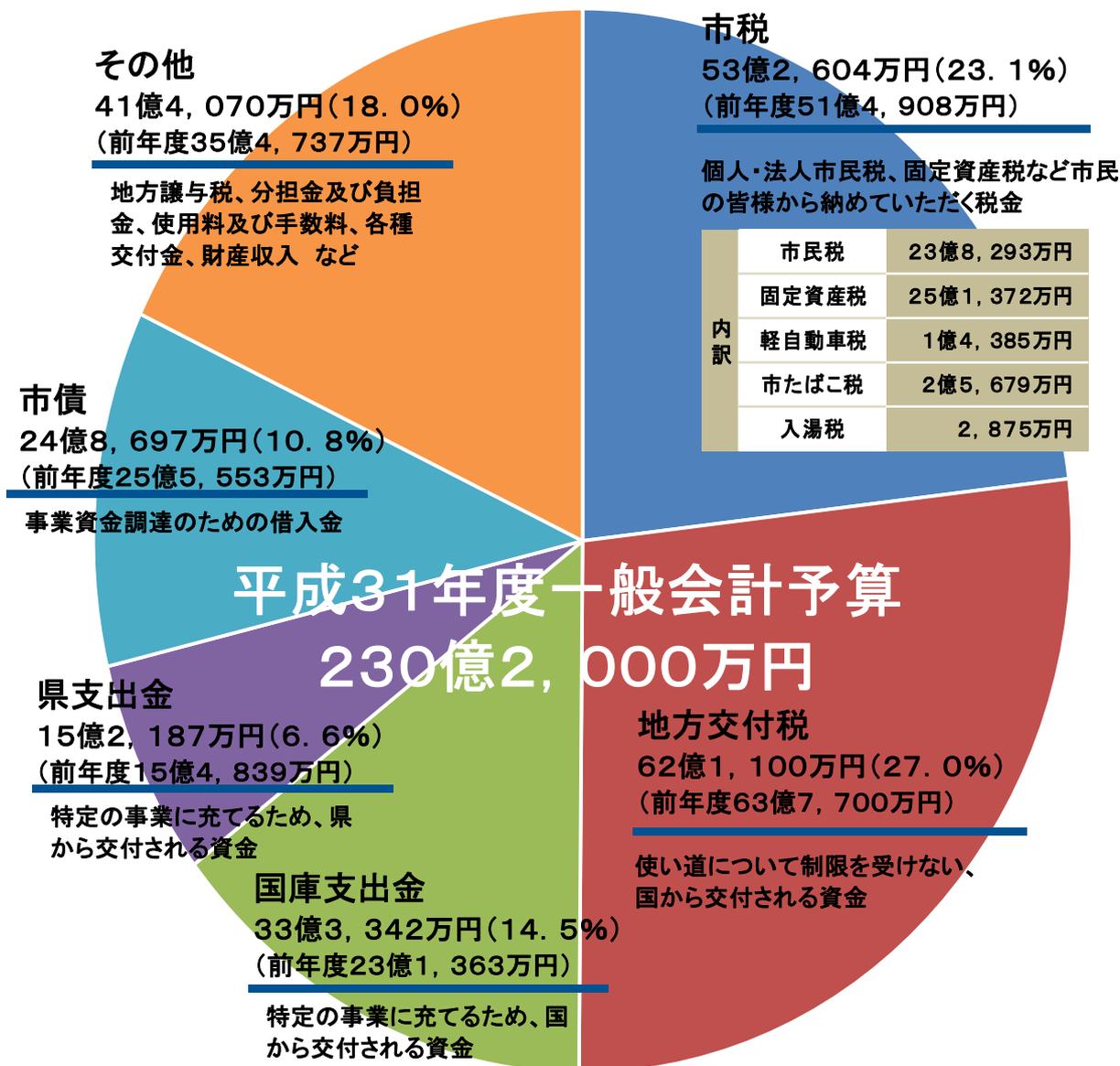
市民一人当たりの予算額 **48万8千円**

氷見市の人口 **47,197人** (平成31年4月1日現在)

子育て 高齢者福祉 など	(民生費)	11万9千円 (24.4%) 【内訳】 子育て 6万3千円 (13.0%) 高齢者福祉他 5万6千円 (11.4%)
学校の管理 生涯学習 など	(教育費)	7万 円 (14.3%)
防災 自治振興 など	(総務費)	6万2千円 (12.8%)
健康づくり 環境保全 など	(衛生費)	5万9千円 (12.1%)
借金の返済	(公債費)	5万3千円 (10.7%)
道路、河川の 整備 など	(土木費)	5万2千円 (10.7%)
商工業の振興 など	(商工費)	2万8千円 (5.8%)
農林水産業の振興 など	(農林水産業費)	2万3千円 (4.7%)
消防活動 など	(消防費)	1万4千円 (2.8%)
その他	(議会費、労働費 など)	8千円 (1.7%)

Q3 氷見市の予算にはどんな《収入》がありますか？

A 一般会計における収入の項目別内訳は次のとおりです。



ポイント

氷見市の収入は、市民の皆様からの税金と国からの地方交付税が半分を占めています。

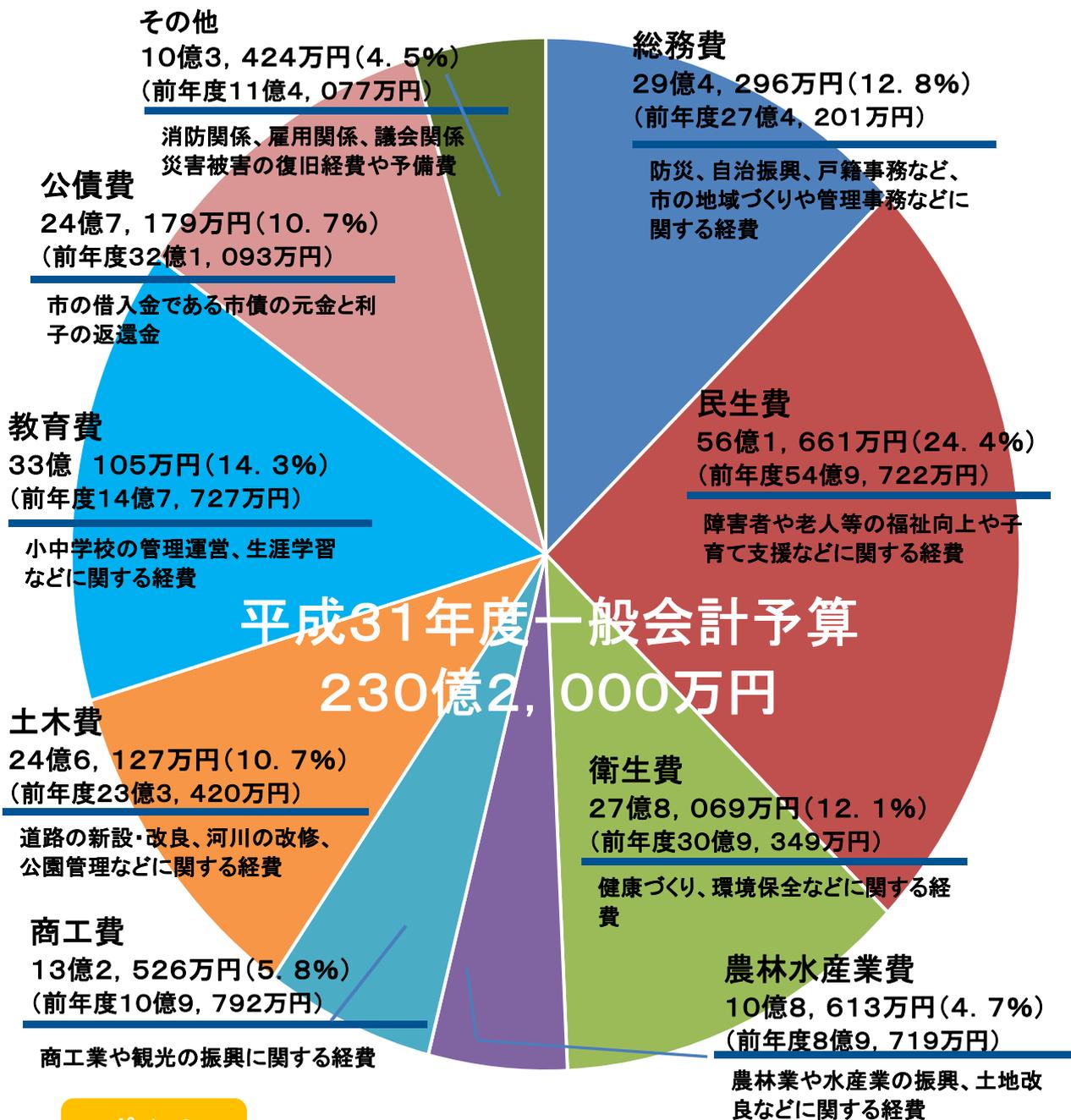
市税は、市たばこ税等の減が見込まれるものの、市民税、固定資産税に増が見込まれることから前年比3.4%の増が見込まれます。

地方交付税については、普通交付税において平成27年国勢調査に基づく人口減少等が段階的に反映されることによる減額が見込まれることから、前年比2.6%の減が見込まれます。

見込まれる財源不足を補うため、財政調整基金を4億5,000万円取り崩すことにより、一般財源を確保しました。

Q4 氷見市の予算にはどんな《支出》がありますか？

A 一般会計の支出(お金の使われ方)の項目別の内容は次のとおりです。



ポイント

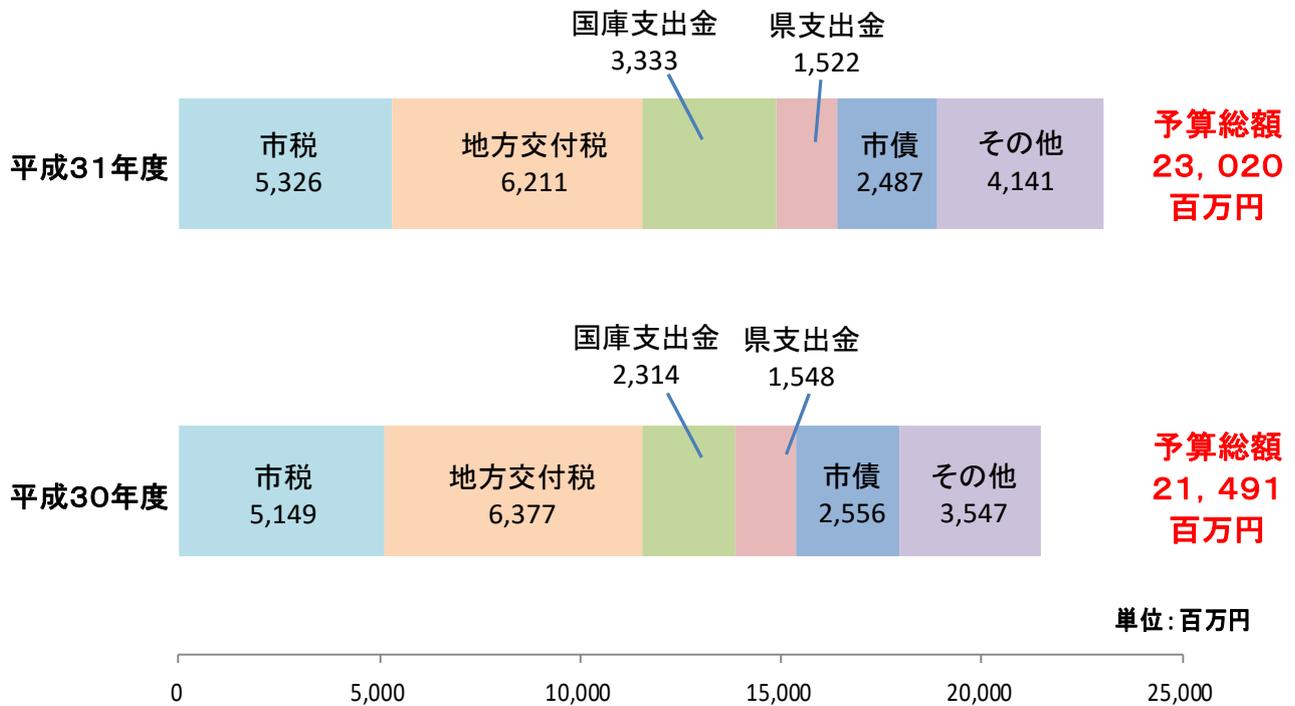
支出のうち、最も多くを占めているのは障害者や老人等の福祉向上や子育て支援などに関する経費(民生費)で、全体の約25%となっています。

旧市民病院跡地での文化施設を核とした新文化交流施設の整備、旧朝日丘小学校跡地での認定こども園整備など「氷見まちなかランドデザイン」に基づくまちづくりに本格的に着手するとともに、現西部中学校校舎を活用した小中一貫校整備、広域観光・インバウンドを視野に入れた滞在型観光の推進、名城大学農学部との連携強化などの「氷見元気プロジェクト」に掲げる事業へ重点的に予算を配分しました。

Q5 平成31年度の収入は平成30年度と比較してどうなっていますか？

A

平成31年度当初予算を平成30年度当初予算と比較してみました。市税と国庫支出金が増額となった一方で、地方交付税や市債は減額となっています。



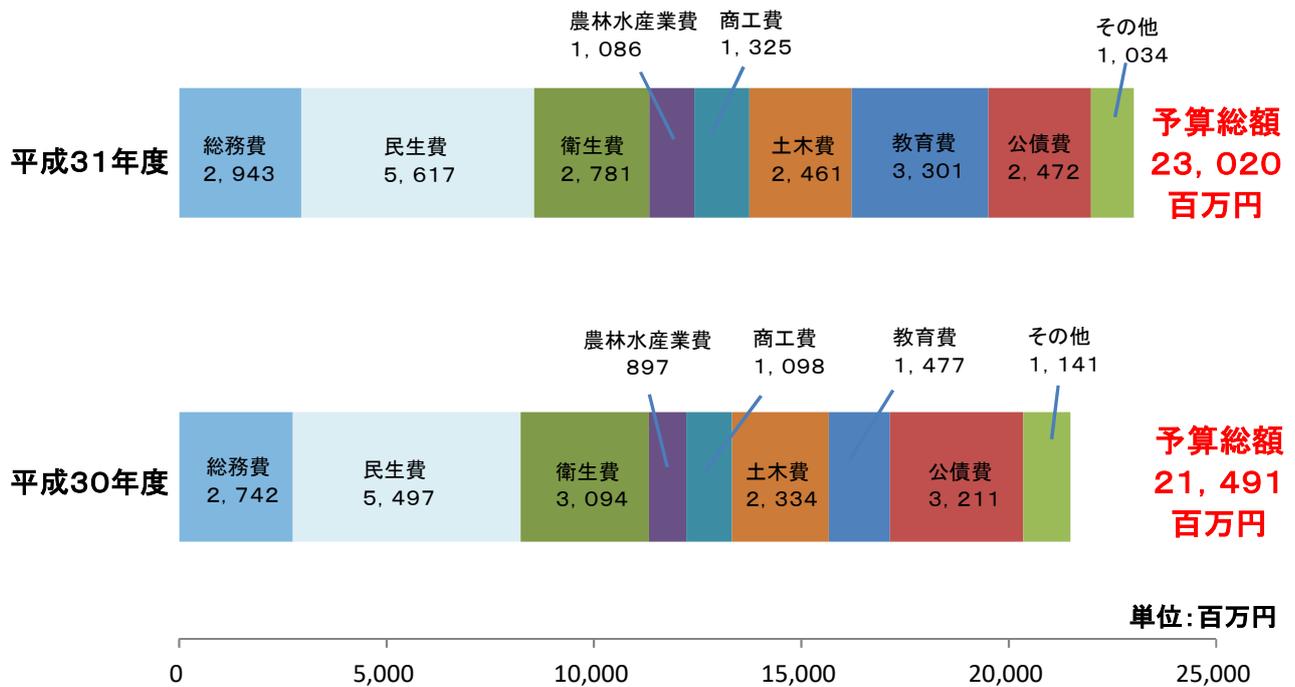
前年度予算との比較

単位：百万円

項目	平成30年度	平成31年度	増減	増減率(%)
市税	5,149	5,326	+177	+3.4
地方交付税	6,377	6,211	△166	△2.6
国庫支出金	2,314	3,333	1,019	+44.0
県支出金	1,548	1,522	△26	△1.7
市債	2,556	2,487	△69	△2.7
その他	3,547	4,141	+594	+16.7
合計	21,491	23,020	+1,529	+7.1

Q6 平成31年度の支出は平成30年度と比較してどうなっていますか？

A 平成31年度当初予算を平成30年度当初予算と比較してみました。教育費が大幅な増額となった一方で、公債費が大幅な減となっています。



前年度予算との比較

単位: 百万円

項目	平成30年度	平成31年度	増減	増減率(%)
総務費	2,742	2,943	+201	+7.3
民生費	5,497	5,617	+120	+2.2
衛生費	3,094	2,781	△313	△10.1
農林水産業費	897	1,086	+189	+21.1
商工費	1,098	1,325	+227	+20.7
土木費	2,334	2,461	+127	+5.4
教育費	1,477	3,301	+1,824	+123.5
公債費	3,211	2,472	△739	△23.0
その他	1,141	1,034	△107	△9.4
合計	21,491	23,020	+1,529	+7.1

Q7 氷見市の財政の現状は？

A 平成29年度決算に基づく算定の結果、氷見市では実質公債費比率や将来負担比率等のいずれの指標も早期健全化基準などを下回る良好な数値となっています。

財政の健全性を判断するには

市民の皆様が財政の健全性を判断できるように、分かりやすく開示することが求められています。

市の財政の健全性を判断する指標(指数、比率などの物差し)には色々あります。

平成19年度決算から導入された財政指標とは

自治体の財政破綻を未然に防ぐために、国では、平成19年に地方公共団体財政健全化法を定めました。この法律は、新たな財政指標により、早期健全化基準(イエローカード)と財政再生基準(レッドカード)の2段階で自治体の財政悪化をチェックするとともに、特別会計や公営企業会計も含めた連結決算により、自治体の財政状況を明らかにしようとするものです。

地方公共団体健全化法(財政破綻を未然防止)

① 自治体の財政悪化をチェック	早期健全化基準 (イエローカード)	財政再生基準 (レッドカード)	② 連結決算
実質赤字比率	15%	20%	× 特別会計 公営企業会計
連結実質赤字比率	20%	30%	
実質公債費比率	25%	35%	
将来負担比率	350%	—	
経営健全化基準		—	
資金不足比率	20%	—	

＝ 自治体の財政状況を明らかに

財政健全化法に基づき、全国の市町村では、平成19年度決算からこれらの数値を公表し、平成20年度決算から、この指標のいずれかが基準を上回った自治体には、財政の健全化に向けた計画の策定などさまざまな制約が課せられることになりました。

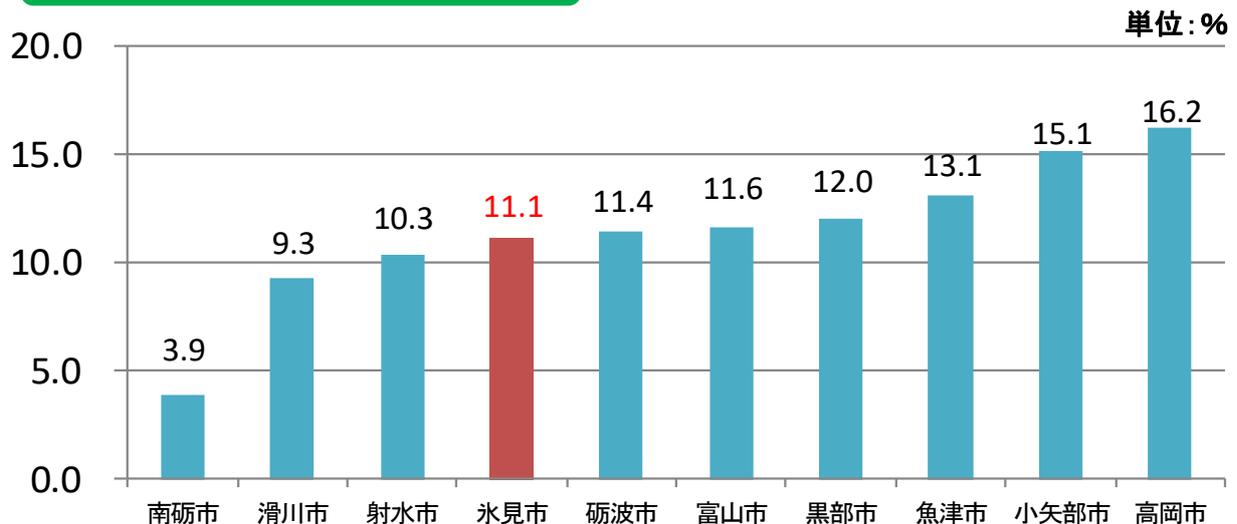
氷見市の財政の健全性について、平成29年度決算をもとに、これらの指標を含む主な指標を用いて、次ページから詳しく説明します。

指標 1 体力以上の借金負担がないかをチェックする「実質公債費比率」

実質公債費比率とは

市の税金や地方交付税など毎年決まって入ってくるお金(経常的な収入)に対して、借入金(市債)の返済に充てた経費(公債費)がどの程度の割合になるかを示す指標です。

数値が小さい方が、より健全です



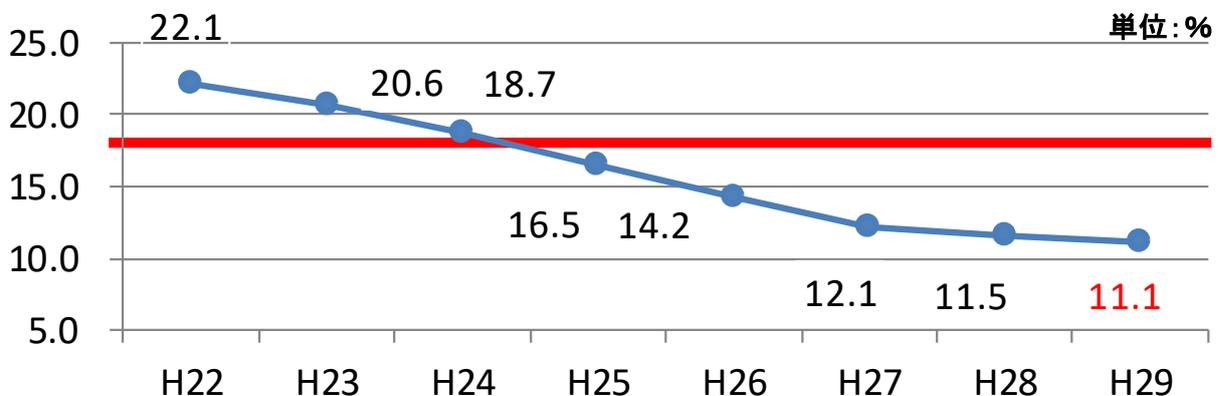
ポイント

一般会計、特別会計、企業会計のすべての会計にわたり計算され、借金返済の負担が多すぎないかチェックすることができます。チェックの目安として、国が定めた基準により「18%」以上になると、新たな借入れ(地方債の発行)に際し、段階的に制約を受けることとなります。

氷見市は「11.1%」(前年度 11.5%)となっています。

財政健全化法では、「早期健全化基準」は25%、「財政再生基準」は35%と定められています。

氷見市における実質公債費比率の推移



ポイント

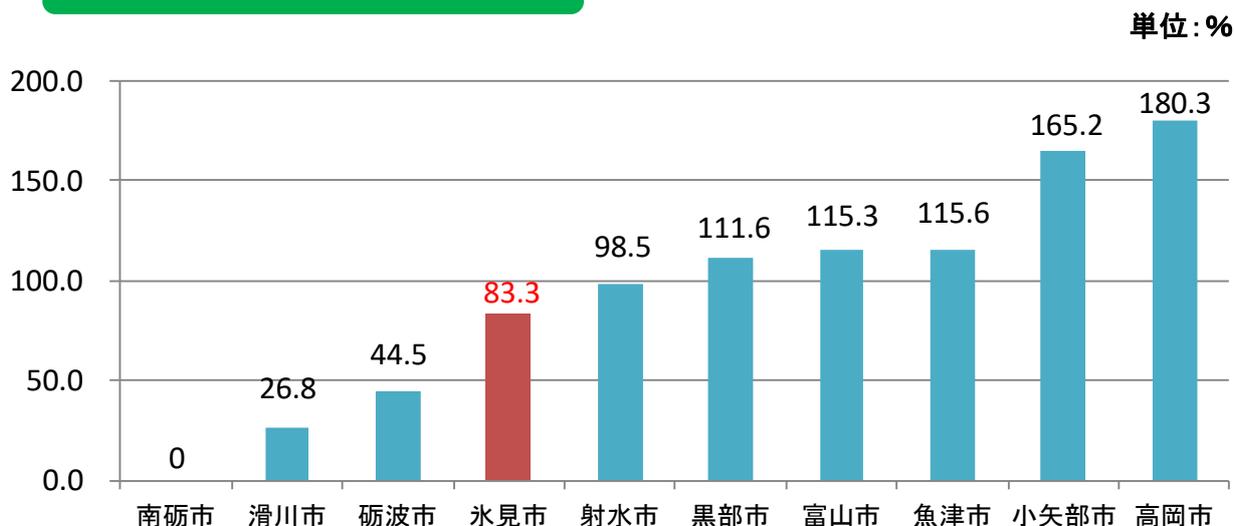
氷見市の実質公債費比率は、これまで県内でも高い水準にありましたが、借入金の償還のピークが過ぎ、償還費が減少してきていることから、近年は改善してきています。

指標 2 将来負担すべき実質的な負債をチェックする「将来負担比率」

将来負担比率とは

市の税金や地方交付税など毎年決まって入ってくるお金(経常的な収入)に対して、借入金(市債)や債務負担行為(長期契約などにより複数年にわたり支払いの予定があるもの)などのすべての負担額から、積立金(基金)などを差し引いた金額がどの程度の割合になるかを示す指標です。

数値が小さい方が、より健全です



ポイント

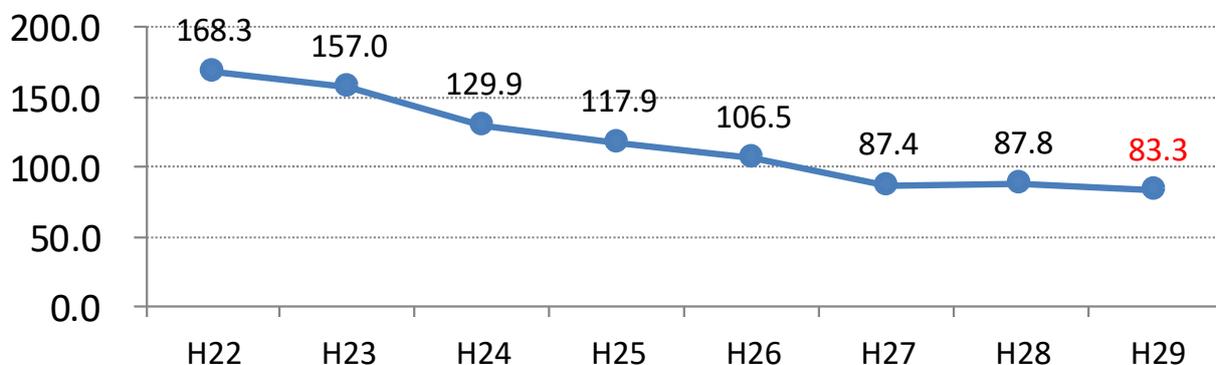
借入金や債務負担行為は将来返済しなければならないものであり、自治体が肩代わりする可能性のある第3セクターの債務なども考慮し、実質的な財政負担全体の状況を数値として表すためのものです。

氷見市は83.3%(前年度87.8%)となっています。

政健全化法では、「早期健全化基準」は350%と定められています。

氷見市における将来負担比率の推移

単位：%



ポイント

平成19年度以降、将来負担比率は減少傾向にあり、平成27年度以降は80%台を推移しています。借入金の抑制や繰上償還を行ったことによる公債費の減少が改善の主要因であり、今後も引き続き改善に努めます。

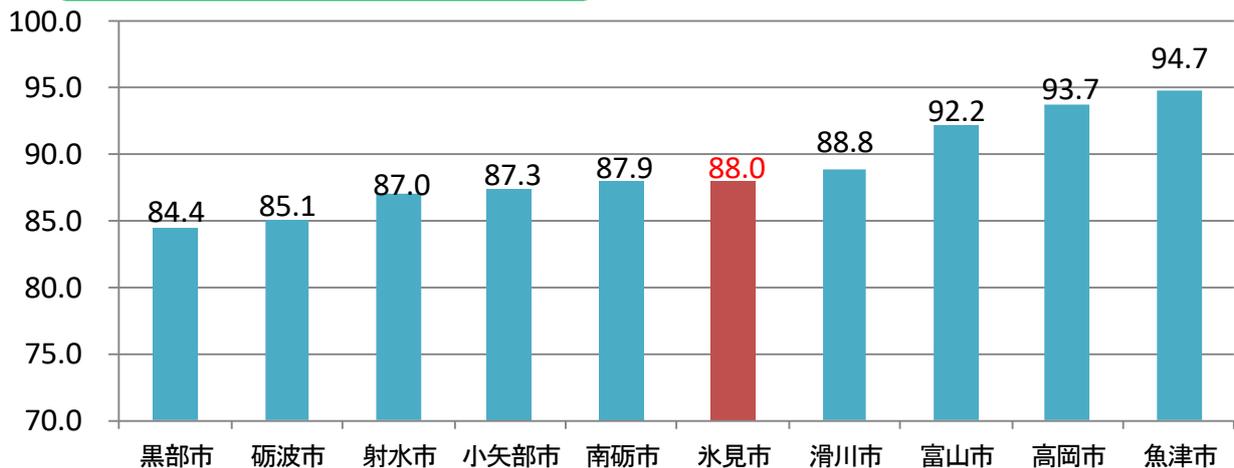
指標 3 財政自由度のバロメータ「経常収支比率」

経常収支比率とは

市の税金や地方交付税など毎年決まって入ってくるお金(経常的な収入)に対して、人件費や施設の維持管理費、扶助費、公債費など毎年決まって出て行くお金(経常的な経費)がどの程度の割合になるかを示す指標です。

数値が小さい方が、より健全です

単位：%



ポイント

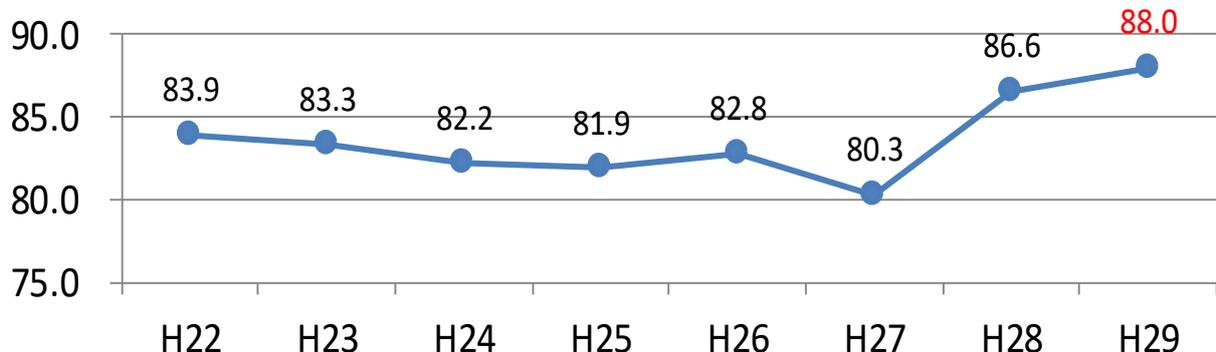
数値が100%の場合、決まって入ってくるお金が全て決まった支出として出て行くため、その年に自由に使えるお金は「ゼロ」ということとなります。

氷見市は88.0%(前年度86.6%)ですので、自由に使えるお金の比率は12%程度となっています。

県内他市との比較では、氷見市はやや低い数値となっています。

氷見市における経常収支比率の推移

単位：%



ポイント

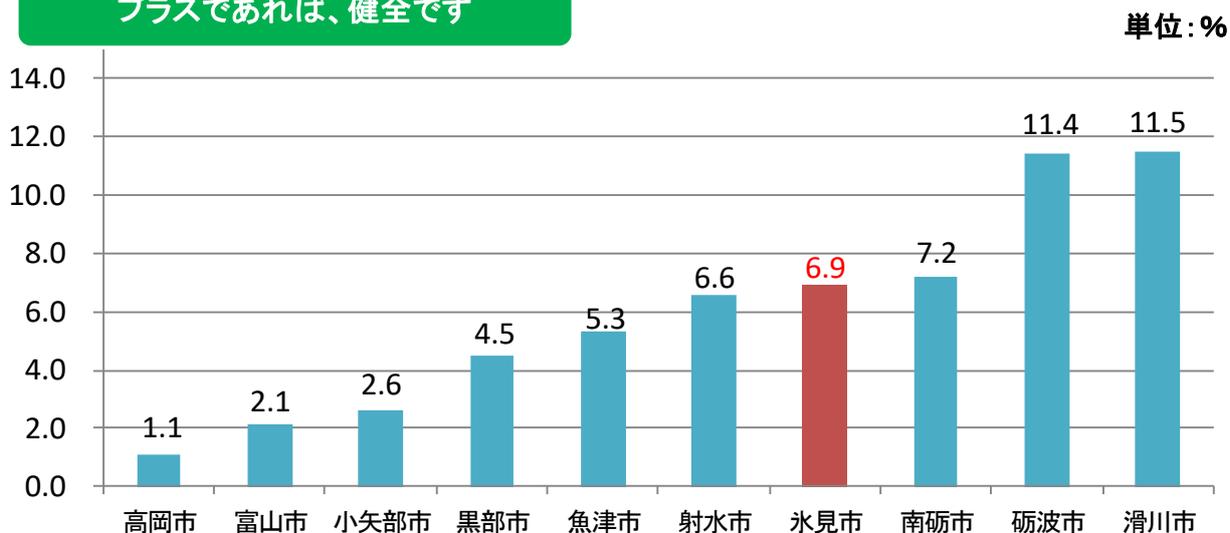
市の借入金の償還がピークを終えた平成21年度以降、数値は年々改善されてきましたが、平成28年度以降は下水道特別会計に係る繰出基準額の算出方法の統一により、経常的な経費になる基準内繰出金の増額に伴い経常収支比率が上昇しています。

指標 4 収支決算をチェックする「実質収支比率」

実質収支比率とは

市の人口や面積などに応じ、標準的にかかるお金に対して、その年の決算により生じた実質収支額(収入から支出を差し引いた額)がどの程度の割合になるかを示す指標です。

プラスであれば、健全です

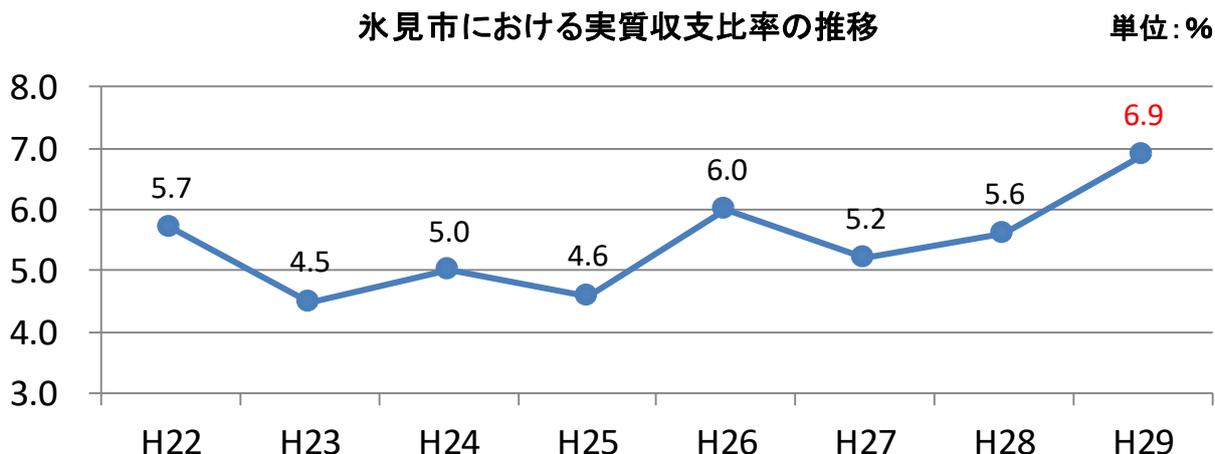


ポイント

収支決算が黒字であればプラス、赤字であればマイナスとなり、その年の決算が健全であったかどうかをチェックすることができます。

氷見市は6.9%(前年度5.6%)となっています。

氷見市における実質収支比率の推移



ポイント

平成20年度以降、実質収支比率は4.0%台から6.0%台の間で推移しています。

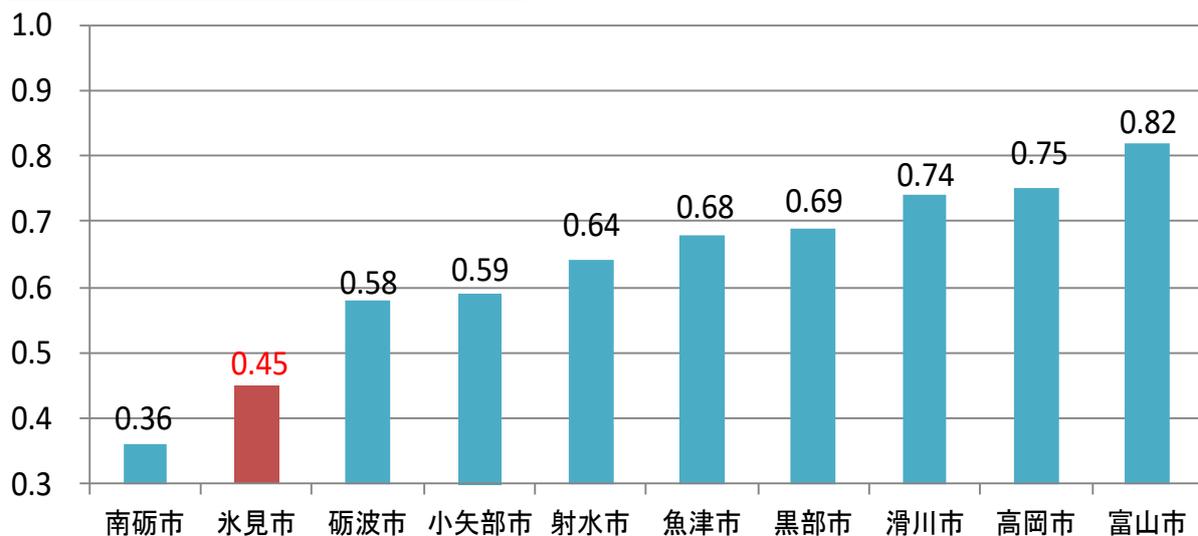
一般的には、3.0%から5.0%の間であることが望ましいとされています。

指標 5 財政体力を示す「財政力指数」

財政力指数とは

市の人口や面積などに応じ、標準的にかかるお金に対して、自主的な収入(市の税金や各種使用料など)が、どの程度あるかを示す指標です。

数字が大きい方が、より健全です



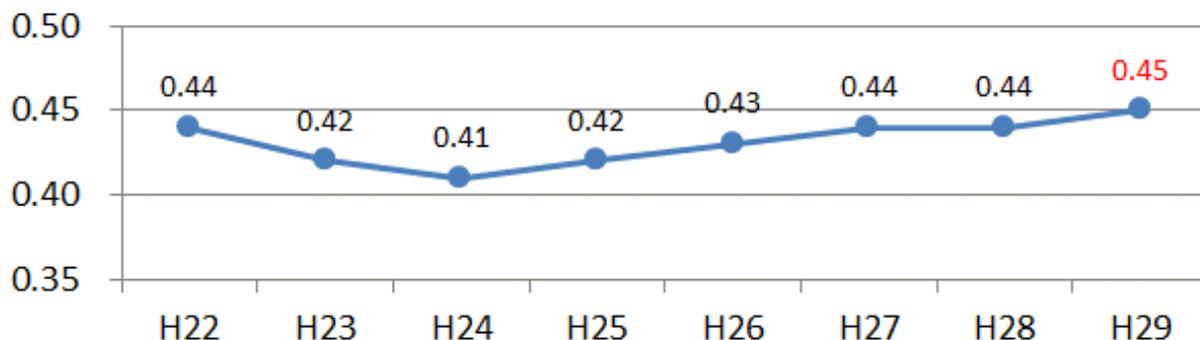
ポイント

数値が「1」であれば、100%自主的な収入で市の運営ができることになります。

氷見市は0.45(前年度0.44)ですので、市の運営を自主的な収入でまかなえる分は45%であることが分かります。

グラフのとおり、県内他市と比較して氷見市は下位に属しており、厳しい財政状況が表れています。

氷見市における財政力指数の推移



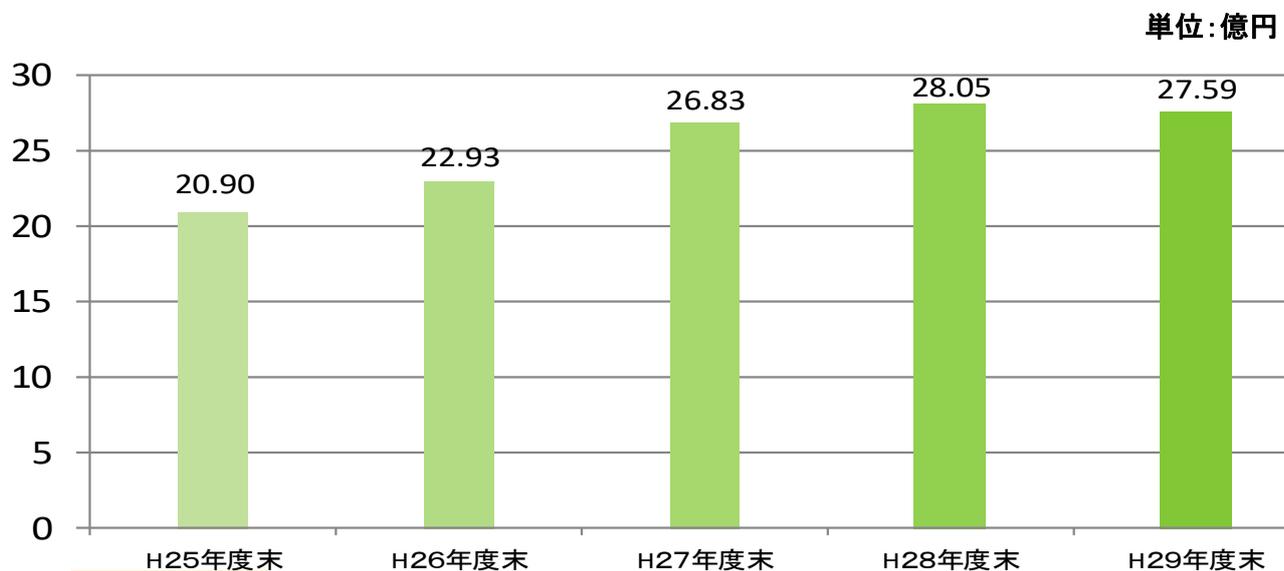
ポイント

平成20年度以降、財政力指数は0.41から0.45の間で推移しています。

人口減少により市税の減少が見込まれる中で、自主的な収入を確保していくことが求められます。

Q8 氷見市の貯金と借金はどれくらい？

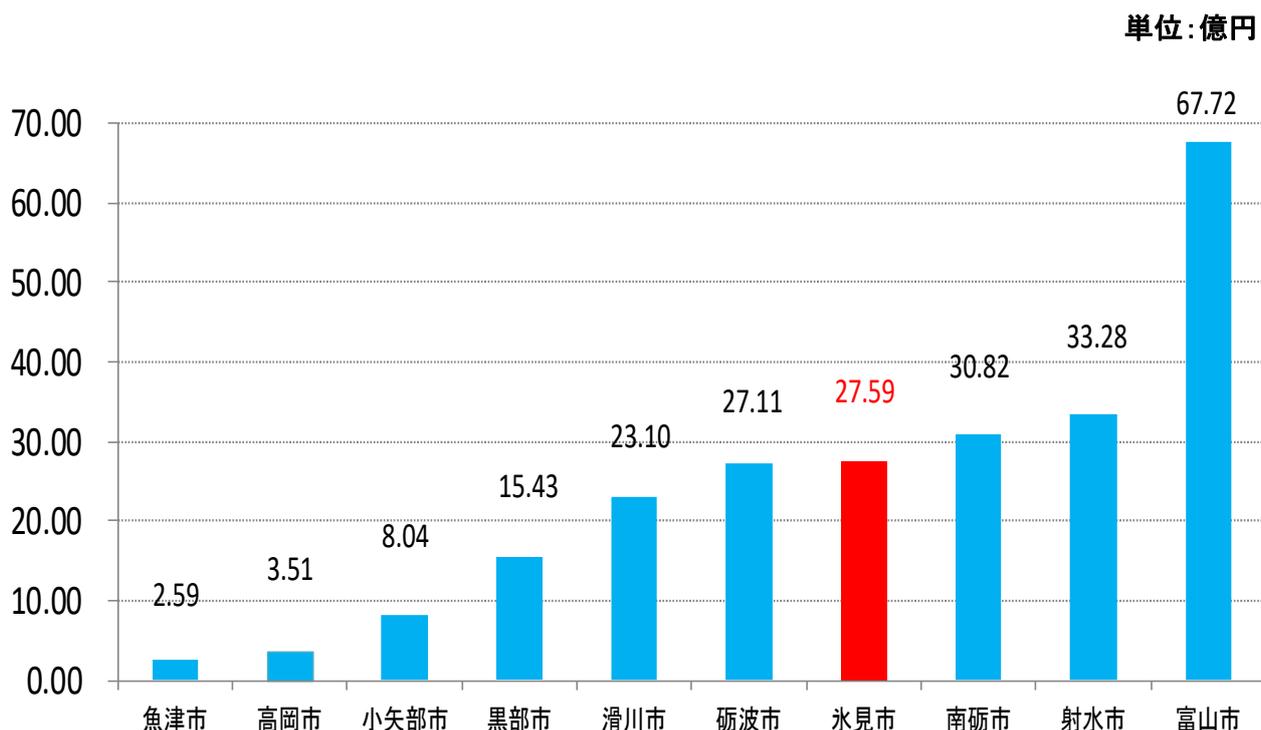
A 氷見市の財政調整基金(いわゆる貯金)の残高は、次のとおりです。



ポイント

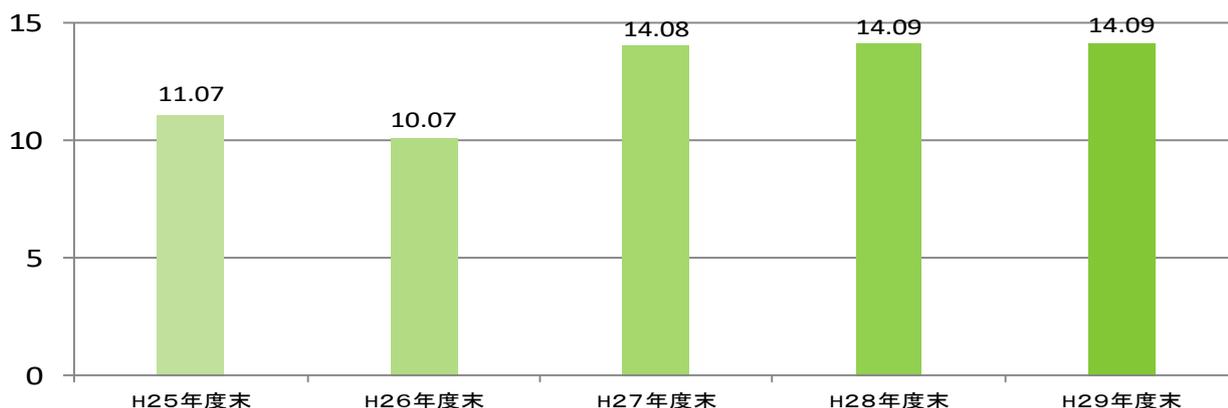
財政調整基金は、急激な収入の落ち込みや災害の発生などにより一時的に多額の経費がかさむなどの不測の事態に備えて積み立てる必要があるほか、今後のまちづくりのための事業に備え一定程度の残高を確保する必要があります。

参考 県内各市の財政調整基金の残高は次のとおりです。



A 氷見市の減債基金(いわゆる貯金)の残高は、次のとおりです。

単位:億円

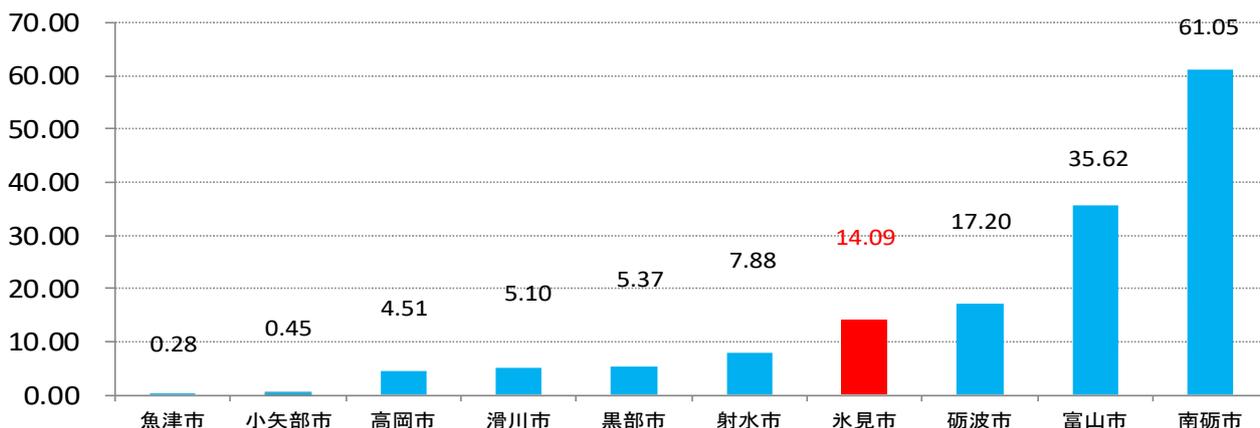


ポイント

減債基金は、市債の償還財源を確保し、財政の健全な運営に資するため、計画的に積み立てる必要があります。

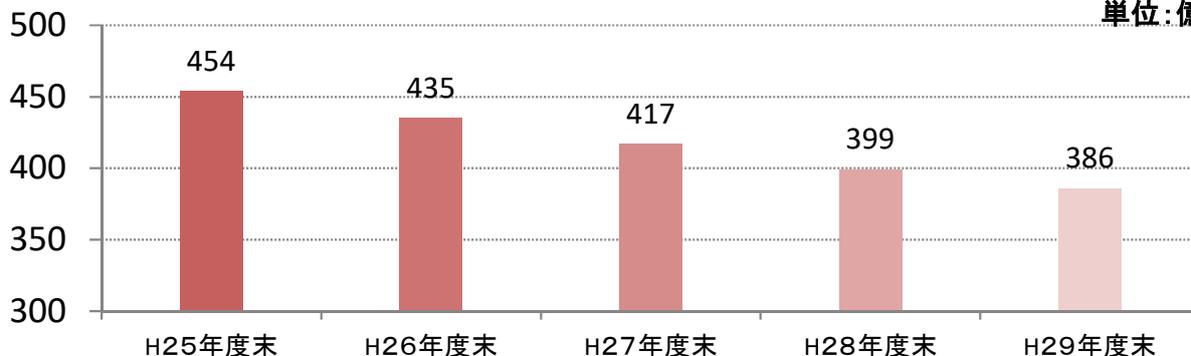
参考 県内各市の減債基金の残高は次のとおりです。

単位:億円



A 氷見市の債務(いわゆる借金)の残高は、次のとおりです。

単位:億円



ポイント

ここ数年は、借入金の繰上償還の実施に伴い、債務総額は徐々に減少しています。しかしながら、依然として過去の借金の返済に要する経費が市の予算に占める割合が高いことから、今後も新規の借入れなどについて適正に管理する必要があります。